

おんせん県おおいたが世界中を沸かせた、
あの『シンフロ』の続編は、まさかの青春ドラマ！
大分県が生んだ名曲「なごり雪」もカバー
『ゆけ、シンフロ部！』本日公開。

世界初、“シンフロジェクションマッピング”が物語のクライマックスをドラマティックに演出！

源泉数・湧出量日本一を誇る大分県は、昨年発表したPR動画『シンフロ』の続編を制作・公開いたしました。大分県内各地のバラエティ豊かな温泉で華麗なシンクロナイズドスイミングの演技を魅せ、話題となった「シンフロ」の続編は、大分県内のある高校のシンフロ部が舞台の青春ドラマ『ゆけ、シンフロ部』。BGMには、大分県出身のシンガーソングライター伊勢正三氏の名曲「なごり雪」をアレンジして使用しています。



羽田空港第1ターミナル電照看板
(10月4日より掲出予定)

「シンフロ」公式サイト URL : <http://onsenkenoita.com>

舞台は、大分県のある高校のシンフロ部(シンフロの県大会やプロのシンフロチームがあるという架空の設定)のマユとアリサの二人の物語です。高校を卒業したらマユと一緒にプロを目指す夢を持つアリサと東京への進学を決意したマユ。二人の別れとなる最後のシンフロのシーンを中心に、高校時代の思い出を振り返ります。この物語は、これから高校や大学を卒業して大分県を離れる若者に向けた、大分を離れたとしても、「大分県はいつでもあなたの帰りを待ってるよ」というメッセージを込めた物語です。

「いつかUターンしてほしい」という大分県の気持ちを青春ドラマで表現。

今、多くの自治体で移住定住促進プロモーションが盛んに行われていますが、今回の『ゆけ、シンフロ部！』もそのひとつです。大分県が考えたのは、夢を追いかけ大分を離れることを決断した若者を引き止めることはできない。だから、愛情を込めて送り出し、そして「大分県はあなたの帰りをずっと待っている」「もし帰ってきたくなくなったらいつでも帰っておいで」とメッセージすることで、他の自治体のUターン・Iターンを促すPR動画と一線を画しました。同時にこれは、若者だけでなく、すでに大分を離れている大分県出身者にも向けたメッセージです。そうすることで、大分県への郷土愛を鼓舞したいと考えています。



大分県出身のシンガーソングライター伊勢正三氏の「なごり雪」をアレンジ。

高校卒業後に別々の道を選ぶ主人公マユとアリサの気持ちにふさわしいBGMとして、大分県津久見市出身の伊勢正三氏の「なごり雪」をアレンジして使用しています。「なごり雪」の歌詞では、東京の駅が舞台となっていますが、伊勢氏は自身の青春時代の大分の津久見駅を思い浮かべたと、かつて語られています)



※劇中では、東別府駅が登場します。

※ 世界初！？シンフロジェクション・マッピング！！

マユとアリサ、二人の最後のシンフロに、サプライズとしてシンフロジェクションマッピングが登場します。温泉の湯面にプロジェクションマッピングをしながら、シンフロを踊るという初の試みは、さまざまな色のついたお湯のある大分県の温泉だからできたことです。湯面へのプロジェクションマッピングは、東京ビックサイト等での実績もある「ランハンシャ」が手掛けています。



※ここでの「世界初」は、湯面にプロジェクションマッピングを映しながら、シンフロをする、という「シンフロジェクション・マッピング」という新しい表現についてのもので、銭湯の壁面にプロジェクションマッピングを行った事例や温泉施設の外観等にプロジェクションマッピングを行った事例はあるようですので表現にはご配慮願います。

シンフロ部の演技指導は、昨年出演していただいた元・日本代表の藤井来夏氏

シンフロ部の部員への振付け、演技指導、監修を行ったのは、元日本代表のオリンピックメダリスト藤井来夏氏。今回も藤井来夏氏が率いる「RAIKA ENTERTAINMENT」の協力のもと、撮影が行われました。また、主人公たちの憧れのプロチーム役で今年もシンフロを披露していただきました。



「シンフロ」について

「シンフロ」は、昨年大分県が「おんせん県おいた新プロジェクト」として公開したPR動画です。2016年9月現在で130万回以上再生されているほか、たくさんのテレビ番組やWebサイト等で取り上げていただきました。現在シンフロのグッズやお菓子等も販売されています。



10月3日(火)夕方より関西、福岡、大分で「ゆけ、シンフロ部！」のテレビCMをオンエアします。今後、シンフロのホームページにて、メイキング映像、出演者情報などを公開していく予定です。

<参照サイト>

- おんせん県おいた新プロジェクト シンフロ< <http://onsenkenoita.com/> >
- おんせん県おいた!ちゃんねる< <http://www.onsenkenoita-ch.com/> >
- 日本一の「おんせん県」大分県の観光情報公式サイト< <http://www.visit-oita.jp/> >
- おんせん県おいた TIMES(facebook)< <https://www.facebook.com/onsenken.oitatimes> >
- 大分県< <http://www.pref.oita.jp/> >

本件に関するお問い合わせ

大分県企画振興部広報広聴課 広報・報道班 青木 葉子
TEL : 097-506-2094
Mail : aoki-yoko@pref.oita.lg.jp

大分県PR事務局 担当:船越・神保・広野
TEL : 03-5572-6071 FAX: 03-5572-6075
Mail : oita@vectorinc.co.jp

『ゆけ、シンフロ部！』ストーリー



夜の温泉に、シンフロ部の5人。
アリサ「これで最後だから、後悔しないでね…」
マユ「うん、わかってる…」
最後のシンフロがはじまります。



教室で向きあうマユとアリサ。
アリサ「なんで練習来ないの？」
マユ「勉強、忙しいから…」
アリサ「いっしょにプロ目指そう、って言ったじゃない！」
逃げるように教室を去るマユ。

※「シンフロ」のプロチームがあるという設定です。



図書室で勉強中のマユ。
でも、どこかうわの空です。



アリサ「やろうよ、シンフロ、いっしょに！」
ふたりがシンフロをはじめたのは、高1のときに、地元のプロチームの演技に魅了されたからでした。

※前作の「シンフロ」のラストシーンでの観客に二人がいたという設定です。



二人でスポーツショップでマイ桶を選んだり、駅で振付けの練習をして怒られたり。新入部員も増え、シンフロ部での楽しい日々が思い出されます。

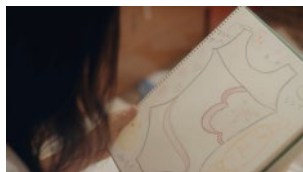


図書室のマユ、手元のパンフレットを見つめます。
それは、東京のデザイン系の大学のパンフレット。



一方、部室で思い悩むアリサ。
部室の棚から落ちてきたマユのスケッチブックに気づきます。

※シンフロ部の部室は、近所の公衆浴場の一画をお借りしています。



それは、マユが描いたシンフロ部のユニフォームのデザイン画。
何かを思うアリサ。



アリサ「最後に一回、シンフロしよう。それで、お湯に流すから」
マユ「え…」
突然のアリサからの電話に驚くマユ。



自転車で最後のシンフロに向かうマユ。
マユ（…こんなじゃ、私、東京なんて行けないよ）
東京に行きたい気持ちをアリサに伝えられなかったことを後悔します。



シンフロ部が県大会で優勝した日。
高校の屋上で叫ぶアリサ。
アリサ「絶対、地元チームに入るぞー！マユといっしょにー！」



アリサの後ろ姿に何も言えなかったマユ。



最後のシンフロも、そろそろラストに。
マユ（ごめんね、ちゃんと見えなくて…）



そのとき、マユの真上から強い光が射します。
立ち上がるマユ。



温泉のお湯の上に、浮かび上がる「いってらっしゃい」や寄せ書きの文字。温泉いっぱいに広がります。
アリサ「サブライズ！」
立ちつくすマユに向かってアリサ「いくよ」



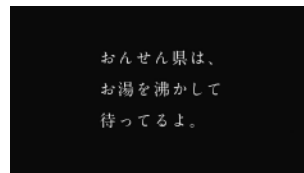
最後のシンフロが再開します。
シンフロジェクションマッピングで温泉に描かれる桜の花。
そして、いよいよフィニッシュです。



シンフロが終わり、笑顔になるマユとアリサたち。

スーパー：
がんばれ、おんせん県の子どもたち。

スーパー：
おんせん県は、お湯を沸かして待ってるよ。



おんせん県は、お湯を沸かして待ってるよ。



『ゆけ、シンフロ部!』劇中カット



釜の口温泉共同浴場 (大分県玖珠郡九重町)



由布院温泉 庄屋の館 (大分県由布市)



あたま温泉 (大分県大分市)



サガラスポーツ (大分県日田市)



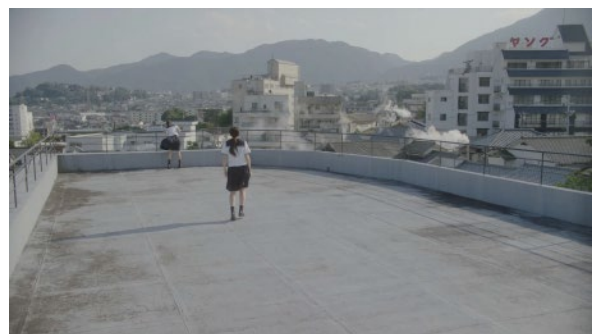
東別府駅 (大分県別府市)



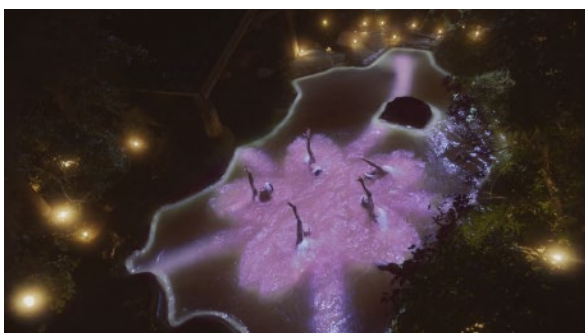
恒久橋 (大分県中津市)



藤蔭高等学校 (大分県日田市)



旅館アサヒヤ (大分県別府市)



釜の口温泉 旅館新清館 (大分県玖珠郡九重町)



釜の口温泉 旅館新清館 (大分県玖珠郡九重町)